一関支部

昨年八月三十日、二〇二五年度総会が一関市の「ホテル松の薫一関」で開催された。

同窓生ら約四十人が出席。総会では物故会員への黙禱に続き、収支決算報告が行われ、役員改選では支部長に緑川昭浩氏（昭59経経卒）を再任した。

続いて、岩手日報社一関支社の菊池健生記者（平25経経卒）が自身の経験を踏まえ「南極探検五百日」をテーマに講演。大工や研究者、自衛隊など各方面のプロが集まり、「取材三割、労働七割」で協力し合ったと振り返った。

南極大陸では「ブリザード」の脅威があり、安全管理が何より大切だと強調。太陽が沈まない「白夜」やオーロラ、コウテイペンギンなどの盛りだくさんの話題が語られたほか、南極でも過去にないほど二酸化炭素濃度が上がり、地球温暖化の影響を受けていることが語られた。

懇親会では緑川支部長が、リクルート進学総研の「志願したい大学」で東北学院大学が東北エリアで一位になるなど注目を浴びていることを話題に挙げ、二〇二三年の五橋キャンパス完成により今後の志願者増加に期待していると話した。また、東北学院同窓会の森山博会長に寄付金を贈った。

経営学部の齋藤善之教授と森山会長も来賓の祝辞を述べ、大学や同窓会の近況を語り、一関支部の益々の発展を期待した。

一関支部の菅原洋顧問の音頭で乾杯し、参加者一人ひとりが自己紹介した。母校の発展を祈りながら和やかに歓談し、最後に全員で声高らかに東北学院校歌を斉唱。互いに再会を誓い合った。〈事務局〉

昭和四十九年工学部応用物理学科卒業同期会（九期生会）

昨年十月二十二日、今回で六回目にして最後となる同期会を、秋保温泉「蘭亭」にて宿泊開催した。

昭和四十九（一九七四）年三月、工学部応用物理学科を卒業した同期生の親睦を目的に「九期生会」と名付けて発足したこの会も、半世紀の時を重ねたことになる。

前回の開催は、二〇一三年の松島で、十二年ぶりの開催であった。当初は二〇二〇年に開催を予定していたが、コロナ禍で延期を余儀なくされ、ようやく今回の実施に至った。

大阪からの遠来の参加者や初参加の同期生も加わり、女性六名、男性十四名が集まった。残念ながら、家庭の事情や体調不良、ボランティア活動などにより参加できなかった同期生もいたが、年輪を重ねた仲間と久々に語らい、懐かしさと喜びに満ちた、思い出深いひとときとなった。

一ノ瀬潤一氏司会のもと、亡き同期生への黙禱を捧げた。続いて、橋本馨幹事長より、「今回をもって最後の同期会とする」旨のあいさつがあり、山田輝和幹事の乾杯（献杯を兼ねる）で宴が始まった。歓談の合間には、一人ひとりが近況を語るスピーチが続いた。終盤には、家庭の事情で参加できなかった齋藤治氏から、参加者全員に手作り木工クラフトのサプライズプレゼントが届けられ、菅井信一幹事のリードで抽選順位を決定。手に取った瞬間に思わず感嘆の声が上がるなど、和やかで温かな時間が流れた。締めは冨内仁幹事による一本締めで一次会をお開きとし、二次会はフリーラウンジ、三次会は部屋に集まって、ゆっくりと語り合う夜となった。

学生時代の思い出、子や孫をめぐる家族の話、現在の健康、卒業後の歩み、これからの人生や趣味の話など、多岐にわたる話題で盛り上がり、時間がいくらあっても足りないほどであった。

翌二十三日の朝には、「喜寿の節目にも九期生会を開催してほしい」という声も上がった。今回をもって一区切りとはしたものの、今後については幹事会で検討することとした。

互いに健康を大切にし、これからの人生をより豊かに、楽しく過ごすことを誓い合い、秋保ワインを土産に散会した。〈山田輝和〉

東京支部

東京支部総会が昨年十月十七日、「コートヤードマリオット銀座東武ホテル」（東京都中央区）において、本部より森山博同窓会会長をはじめ多くの来賓の参席を賜り六十余名が出席し開催された。

冒頭、宮川忠康支部長より大学キャンパスの五橋移転の効果が高まっていることを受け、さらなる発展のために東京支部としての活動を充実させたいとあいさつがあった。

脇田睦生元榴ケ岡高等学校校長の祈禱に続き、来賓を代表して森山会長より本学の現状の説明があった。特に仙台における本学の勢いは他を席捲しているとのお話があった。

帆足直治中学校・高等学校校長より共学の一回生が卒業したことと、スポーツや進学で目覚ましい成長を遂げていることの報告、佐藤周榴ケ岡高等学校副校長より泉キャンパスに移転し、生徒や教員が広いスペースで伸び伸びと過ごしている様子と、高校野球県大会で準優勝し、初戦より試合ごとに成長していく生徒たちの報告があった。

懇親会では、中沢正利副学長より教育学部と未来探究科学部が二〇二七年四月の設置に向けて動いていることと、地域活性化を旨としたデータサイエンス人材育成事業の取り組みのお話をいただき、乾杯のご発声で始まった。

好評のくじ引きは、その内容もパワーアップし仙台ゆかりの景品や本学のグッズなど景品が充実し、大いに盛り上がった。同窓生のマジシャン上口龍生氏のマジックショーは同窓生がステージに招かれ参加する楽しいショーとなった。

閉宴に際し、応援団OBの村上隆氏のリードにより学院校歌を声高らかに歌いあげた。最後に大久保裕寿副支部長のあいさつでネットでの本学の各種の人気と評判を聞き、驚きと喜びの声で包まれた。

東京支部では、東京及び関東近県にお住まいの同窓生が気軽に集う場づくりを目指しております。

皆様のご協力をお願い申し上げます。〈事務局〉

近畿支部

昨年11月15日に、東北学院同窓会近畿支部（TG青葉親睦会）の総会・懇親会を「KKRホテル大阪」（大阪市）で、帆足直治中学校・高等学校校長、校友課長をお迎えして開催しました。当日は、28名の出席をいただきました。

総会に先立ち、同窓生で、文学部英文学科ご卒業の池部さんとご子息の拓朗さんによる二胡のミニコンサートを開きました。お二人の演奏は素晴らしかったです。二胡は、中国の伝統的な擦弦楽器の一種で、2本の弦の間に挟んだ弓で弾きます。「スタンドアローン（「坂の上の雲」のテーマ曲）」「島唄」「夜来香（イエライシャン）」など、幅広い楽曲の演奏で、趣のある音色に聴き入り、素敵な時間を過ごしました。

総会は、川端副支部長の司会で始まりました。国吉支部長のあいさつ、帆足校長からご祝辞をいただきました。帆足校長は、大阪府箕面市の生まれとのことでした。帆足校長からのお話で、東北学院大学は２つの新しい学部を開設し、土樋キャンパスと五橋キャンパスの間に新しい棟を建設する予定とのことです。この少子化の時代にすごいことだと思います。また、リクルート調べで、東北地区の「志願したい大学」で第1位になったと伺いました。OB・OGの活躍もあり、アンケートで通わせたい学校になっているとのことです。母校の発展を出席者は感慨深く伺いました。

事務局から、1年間の活動報告を行いました。4月には「お花見の会」で、滋賀県近江八幡市の「元祖水郷めぐり」手漕ぎ舟に乗り、船頭さんのおもしろい話を聞きながら桜を楽しみ、お弁当をいただきました。6月には何年かぶりに「女子会」を開催、12名の参加で、お喋りに花が咲きました。7月には「納涼会」を神戸市で開き、焼き肉を食べ、猛暑に負けぬようスタミナをつけました。

最後に2024年総会の会計報告を行い、松谷幹事による会計監査の報告があり、全て承認されました。女性有志によるハンドベルの伴奏で讃美歌を斉唱し、総会は終了しました。

続いて、森川幹事の発声で乾杯、懇親会に入りました。各テーブルにマイクを回してスピーチをしていただきました。ためになる話、興味深い話には頷きながら、楽しいスピーチでは笑いながら、それぞれが近況報告に耳を傾けました。近畿支部の会員は付き合いも長いので、話も盛り上がりました。

スピーチの合間には恒例になった女性有志のハンドベル演奏があり、堀越さんの美しい歌声とベルの音色が響き、穏やかなひと時を過ごしました。なぞなぞクイズを出題し、頭を使っていただきました。参加者全員によるビンゴゲームでは、商品として画家でイラストレーターの古山拓さんのカレンダー、手作りの来年の干支の飾り、洋菓子・和菓子などを用意して、各自、楽しみながら商品を選んでいました。

楽しい時間は、あっという間に過ぎ、和やかな雰囲気のまま、応援歌・校歌を斉唱。岡田幹事の応援団エール、集合写真撮影と続き、最後に丸山副支部長の閉会の辞で、再会を約束して散会となりました。〈事務局〉